

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、地域生活の維持を念頭に置いた上で、地域社会の一員である事をしっかりとった理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長や管理者は、日常のケアの中で理念に触れ確認するようにしているが、全職員が理念を具体化していく事を意識して取り組むまでには至っていない。	○	利用者が地域社会の一員として暮らすべく全職員が理念を深く掘り下げ、普通の暮らしを踏まえた実践となるように、具体的なケアの取り組みがなされる事を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や福祉祭りにも積極的に参加し、利用者と地元の人々が交流できる機会を持つるように努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を全職員が理解しており、外部評価の結果を踏まえ改善を積極的に図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への積極的な呼びかけが行われ、地域包括支援センター職員をはじめ市職員及び地域住民が参加してのテーマ別の議論がなされる等、サービスの質の確保が行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に相談を行いながらケアマニュアルの整備が行われている。課題解決を図るべく協働関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホームより写真を多く活用した家族便りにて生活の様子が報告されている。また、突発的な出来事については、電話できめ細かく様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や地域住民から気軽に意見を言ってもらえるようホームの雰囲気づくりに留意している。また、玄関入り口にご意見箱を設け、外部者からの意見や苦情等を前向きに受け止め生かしていくホームの姿勢がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が非常に少ない。経験豊富な職員がなじみの関係を大切にした支援を心がけている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	写真を用いたマニュアルの整備が的確に行われている事から、職員は働きながらも技術や知識を身につけていく事ができている。個人の希望研修もホームが支援を行う等、積極的な職員育成が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と年に2、3回の相互研修会を行い交流を図っている。地域のネットワークづくりや勉強会にも参加し、サービスの質の向上に励んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急な受入れ要請にも的確に答えているホームの姿勢がある。しかし、利用者本人の納得を得た上で利用開始に至ったケースは少なく、入居前にホームの雰囲気を感じる等の工夫がなされていない。	○	なるだけ本人や家族がホームを見学してもらう事から始め、時には職員が病院や家まで出向いたり遊びに来てもらったりを繰り返しながら、ホームでの生活が安定するのを見極めて、納得した上でサービスの開始ができるように工夫してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるとの意識を職員はもち、普段から利用者一人ひとりを敬う関係を構築している。お互いが協働しながら和やかな生活が送れるように場面づくりや利用者の視点で声かけを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個人にとって、一番望む事は何なのかを少数者のなじみの関係を生かし、暮らし方の希望や役割、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の全職員による職員会議（意見交換会）の中で、それぞれの利用者担当職員を中心に意見やアイデアを出し合い、介護計画の作成に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員が中心となった情報確認を随時行い、家族や利用者本人の要望を取り入れ3か月に1度の見直しと状況に応じた見直しが行われ、介護計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を行い、利用者個々の安心感を高めるよう努力している。ホームの多機能性を生かし、地域住民を招いた料理講習会等も積極的に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族が希望されるかかりつけ医となっている。基本的には、家族同伴の通院となるが、不可能な時には職員が代行し病院の協力を得ながら受診できるよう24時間の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについて、本人、家族との話し合いを適切に行い、かかりつけ医との協議のもと、看取り介護が適切にできる体制（指針・同意書の整備）を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関する事を話さないように徹底した教育がなされている。また、言葉の内容や語調が利用者の誇りを傷つけないように配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人のペースを大切に、職員の都合に合わせてではなく、利用者一人ひとりが本来持っている生活ペースへの支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけから配膳・下膳を利用者の役割に応じた支援が行われている。職員は介助する一方にならず、利用者本人と同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回を基本とし、要望があれば毎日でも入浴ができる体制がある。また、職員は利用者個人の情報を家族から伺い、体調面を含め個人にあった入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者全員に役割があり、自分らしさがよみがえった利用者が多い。職員は利用者個々の力量を見極め経験や知恵を発揮できる場面をつくり出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外へ出る機会がとても多い。買い物や畑仕事、レストランへ出向きコーヒーを飲む等、これまでの生活と大きく変わらない暮らしぶりがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りが徹底されている。玄関や居室に限らず鍵は全て開放されている。職員は利用者の状態に合わせ、鍵をかけずに安心して安全に過ごせる工夫を重ねている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年に1回の総合防災訓練と、年4回の防災訓練をホームで行っているが、地域住民の参加及び協力は得られていない。	○	いざと言う時の災害時は、職員だけの誘導や避難には限界がある事を踏まえて、地域住民の協力体制が得られるように日ごろから話し合いを行い、一緒に訓練を行う等の取り組みが行われる事を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設長が栄養士である事から、栄養のバランスを考えた献立が作られ、一日の摂取カロリーや水分摂取の支援が的確に行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族、そして来客にとっても居心地の良い木材を基調とした落ち着いた共用空間となっている。設えも家庭的な雰囲気を壊さず、自然を生かした季節感を感じさせる意図的な取り組みが図られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの家具類（椅子・机・たんす・三面鏡等）の持ち込みが少ない。ベッドは全てホームが準備し、病院で利用されている床頭台も置かれていた。	○	利用者が長年使い慣れたなじみの家具や日用品が、家族の協力のもと設えられていく事を期待したい。利用者にとって居心地の良い設えとは何なのかを継続して考察してもらいたい。

※  は、重点項目。